

古代が見える 世界につながる

ガイドブック

富家の歴史

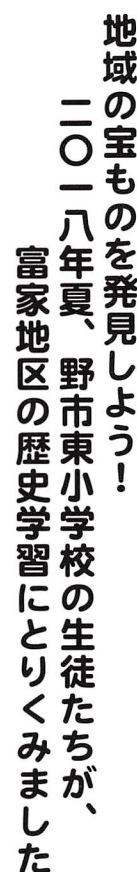


土佐史談会

◇平成30年度高知県教育委員会公民館ふるさと教育推進事業◇

地域の歴史もの知り隊

高知県教育委員会生涯学習課



(近藤奏)

近森 柊太・竹崎 心那

2002年8月30日付『高知新聞』より



三宝山のふもと 人々は弥生時代から 生活してきました

明治二十二年（一八八九）年、新宮、中山田、兎田、本村の四カ村が合併して「富家村」がうまれました。初代村長は、物理学者・寺田寅彦の義兄で画家として有名な別役春田という人です。

別役村長は、富家村のことを「北は高い山で北風を防ぎ、南風を受け、夏冬ともにずいぶん気候の良い土地」だと自慢しています。

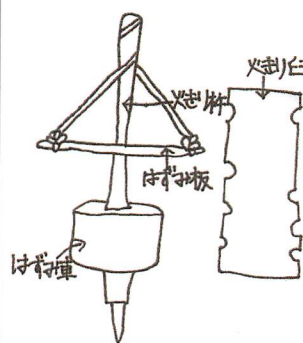
兎田の柳ヶ本遺跡では、弥生時代の壺や甕、古墳時代の墓が発掘されました。周辺には、本村遺跡、大崎山古墳、曾我遺跡、下分遠崎遺跡などがあり、二千年も前から稲作をしながら人々が生活してきたことがわかります。

昭和三十（一九五五）年、富家村は野市町、佐古村、香宗村と合併して野市町になり、平成十八（二〇〇六）年、野市町は赤岡町、香我美町、夜須町、吉川村と合併して香南市になりました。

旧富家村からは、坂本龍馬の海援隊で活躍した新宮馬之助をはじめ、世界的に有名な森田正馬博士などの偉人も出ています。
 今回は、面白い歴史がいっぱいの富家地区を探訪しました。



火おこしに使う道具



（竹崎心那）

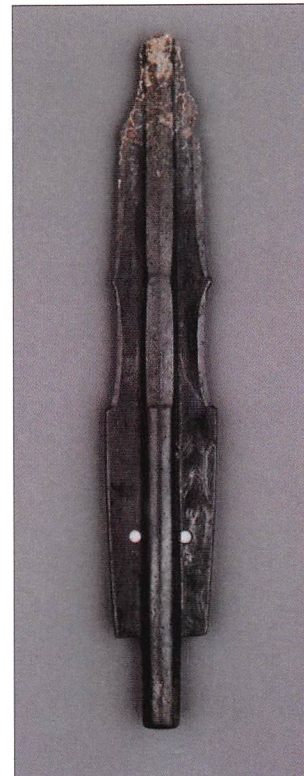
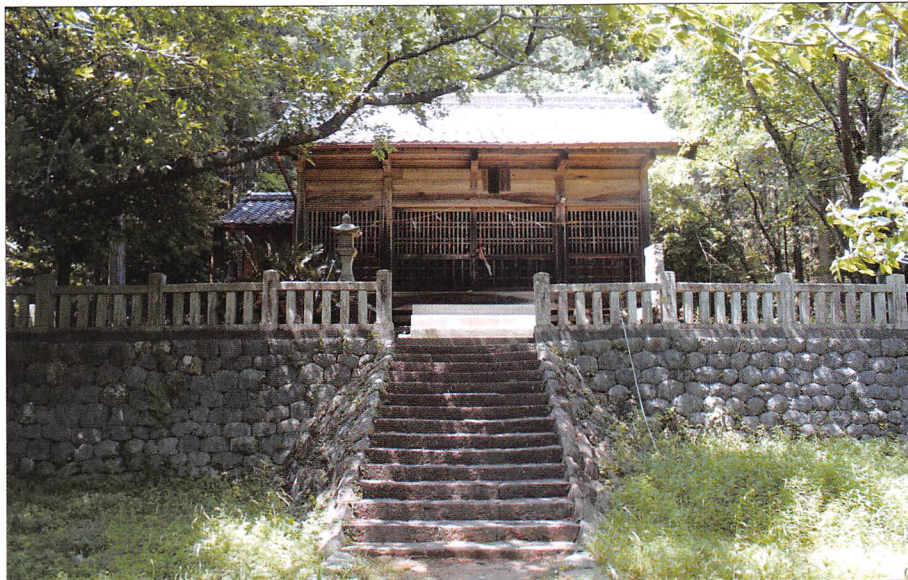
火おこしをしてみよう

実際に火おこしをしてみよう、むずかしいけどなと思いました。時間もかかりました。けむりは何回もつくけれどすぐに消えてしまいます。昔の火おこしの道具を使って火をおこすのはむずかしいけれどやってみて楽しかったし、貴重な体験ができました。

今と昔を比べて

今と昔を比べて、今のほうが便利だなと思いました。今はマッチやライターなどかんたんに火をつけられるけれど昔はそんなものはなかったのですごく苦労したと思います。





国の重要文化財に指定された うさいだ 兎田八幡宮の銅剣

兎田八幡宮では、^{おうじんてんのう}応神天皇、^{じんぐうこうごう}神功皇后、^{ひめがみ}姫大神がまつられています。社殿は昭和34（1959）年火災にあい、同62（1987）年に再建されました。紀元前2世紀前半頃に作られたとみられる神社所蔵の銅剣には、稲作と関係が深い、シカ、サギ、カエル、カマキリの4種7体がきざまれています。先端部が火事で失われましたが、大変珍しい絵画銅剣として、平成6（1996）年国の重要文化財に指定されました。現在は、高知県立歴史民俗資料館で大切に保存されています。

兎田八幡宮で見つかった銅剣

銅剣の特徴と説明	〜銅剣の絵〜
特徴 剣身下部から刃部までの右側上部の表裏にシカ・サギ・カエル・カマキリの絵があるということ。 説明 この銅剣は昭和34年(1959)神社の大火で、さき部分と消失して、現長は23cmだったか本来はもう少しあったと推定される。この銅剣は弥生時代前期〜中期前半頃に製作されたと考えられる。	シカ サギ カエル カマキリ

兎田八幡宮までの道のり

銅剣は、何をするために使われていたのだろうか？

シカは土地の精霊、サギは水の精霊、カエルは雨をよむカマキリは害虫を食う生き物として近隣の銅剣多量に数多くつくられ、銅剣が製作された地域、雨ごいの農耕稲田にかなた木根柱となっていた。

その他 歴史民俗という観点から稲作の神は、高知県は他の県とちが、よくしなとて青とうろ器は金きり、神社にはとうろしてしたそう!!

シカ・サギなどの絵をきざきく書くとい

(三宅重弥)

重要文化財に指定される兎田八幡宮（野市町兎田）に伝わる絵画銅剣。右側上部に動物の絵が見える。県内の考古資料が重要文化財に指定されるのはこれが初めて

野市町の兎田八幡宮で発見

国の保護審議会答申

この銅剣は、近世の人物の物ではなく、弥生時代のものである。その絵は、シカ、サギ、カエル、カマキリの4種7体がきざまれている。これは、稲作と関係が深い動物であり、弥生時代の銅剣には珍らしい。この銅剣は、弥生時代前期〜中期前半頃に製作されたと考えられる。

絵画銅剣 重要文化財指定へ

弥生文化研究に貴重

この銅剣は、弥生時代の銅剣としては珍らしい。その絵は、シカ、サギ、カエル、カマキリの4種7体がきざまれている。これは、稲作と関係が深い動物であり、弥生時代の銅剣には珍らしい。この銅剣は、弥生時代前期〜中期前半頃に製作されたと考えられる。

考古資料で本県初

この銅剣は、本県で初めて重要文化財に指定される。これは、弥生時代の銅剣としては珍らしい。その絵は、シカ、サギ、カエル、カマキリの4種7体がきざまれている。これは、稲作と関係が深い動物であり、弥生時代の銅剣には珍らしい。この銅剣は、弥生時代前期〜中期前半頃に製作されたと考えられる。

重要文化財指定をつたえる高知新聞記事

海援隊士

新宮馬之助

天保九（一八三八）年、新宮の郷士・寺内信七の二男に生まれました。新宮公民館の前には、「誕生地」の碑が立っています。

生まれつき絵の才能にめぐまれ、高知城下に住む叔母の家で、鑄掛屋（穴のあいた鍋や釜などを、はんだで修理



する職業）を手伝いながら、河田小龍から学問と画をまなびました。

馬之助は先生の小龍から日本の現状、世界の動きを聞くにつけ、国の行く末を思う気持ちを伝えることができず、元治元（一八六四）年、ついに十余年間手にもちつづけた絵筆をなげうって江戸へ向かいました。

文久三（一八六三）年、江戸で勉強中、坂本龍馬に誘われて勝海舟の塾に入門し、航海術を学びます。

そして、龍馬が長崎につくった亀山社中、海援隊に入り、寺内新右衛門と名のつて活躍しました。

海援隊では一番の美男子で、顔が赤かったので「赤面馬之助」と呼ばれました。

明治維新後は、北海道開拓に従事したあと、浦賀海兵団にはいり海軍大尉にまで出世しました。



（上の写真）
新宮馬之助が生まれた所

坂本龍馬



天保6（1835）年、高知城下上町の豪商・才谷屋で生まれました。子どもの頃は泣き虫でしたが、剣術修行と姉・乙女の教育と鍛錬で成長。嘉永六（1848）年、江戸に出て北辰一刀流を学びました。

文久元（1861）年秋、武士半平太が結成した「土佐勤王党」に加わり、翌2年土佐を脱藩。勝海舟の門に入って神戸海軍操練所設立に力をつくし、海軍塾塾頭をつとめて航海術を修行しました。

この間、福井藩主・松平春嶽、幕臣・大久保一翁、薩摩の小松帯刀、西郷隆盛など多彩な人々と交流しました。

慶応元（1865）年、長崎に日本で最初の株式会社

といわれる「亀山社中」をつくって通商航海業を営むかたわら、中岡慎太郎と二人三脚で、犬猿の仲だった薩摩（鹿児島）と長州（山口）の間をとりもち、翌年「薩長同盟」を成立させました。これが徳川政権から明治新政府樹立へ時代を動かす推進力になりました。

さらに後藤象二郎と力をあわせて土佐藩から「大政奉還建白書」を幕府へ出させ、15代将軍・徳川慶喜による大政奉還（政権を朝廷に返すこと）を実現します。

龍馬が書いた「新政府綱領八策」は、人材の登用、憲法制定・議会制度、陸海軍の整備・拡充など新しい日本が実現すべき基本方針を示し、「5ヶ条の御誓文」のもとにもなりました。しかし、慶応3年11月15日、龍馬と慎太郎は京都近江屋の2階で見廻組に襲われ、暗殺されました。龍馬33歳、慎太郎30歳。



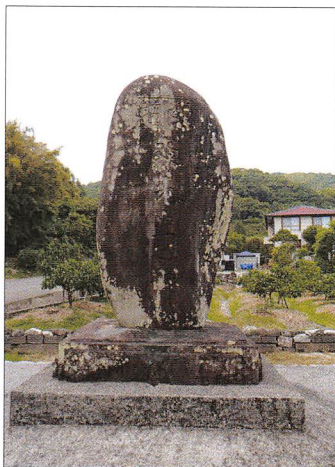
坂本龍馬は、日本人がもっとも好きな歴史上の人物です。

森 新太郎

森新太郎は、文政十二（一八二九）年、新宮の郷士の家に生まれました。土佐勤王党の一人です。

慶応四（一八六八）年、戊辰戦争が始まると、板垣退助が指揮する土佐藩の迅衝隊に加わり、東北の各地を転戦。会津（福島県）の母成峠の戦いで敵の刃を前頭部に受けて負傷。危機一髪のところを救われました。

明治になって土族の特権がうばわれることに不満をもち、野市町横井の大石弥太郎（圓）たちと一緒に「古勤王党」と呼ばれる不平土族の集団を県下に形成。さらに政治団体「嶺南社」を立田（南国市）に設け、香長学校をつくって青年たちの教育にあたりました。明治四十二年、八十一歳で死去。お墓も新宮にあります。



森新太郎の碑（新宮）

ぼ し ん 戊辰戦争とは？

【新政府軍・土佐藩軍の進軍図】



慶応四（一八六八）年一月の鳥羽伏見の戦いから翌年五月の箱館戦争終結まで、新政府軍と旧幕府派との間で行われた内戦を「戊辰戦争」と言います。これによって六百八十年続いた武家政権は終止符を打たれ、日本は近代国家への道を歩み始めました。戊辰戦争に参加した土佐藩兵等は二千人を超えます。香南市からも多くの人が加わり、関東、東北の各地を転戦しました（左の図）。

新宮馬之助の描いた絵馬

新宮の熊野神社に奉納された絵馬は、新宮馬之助が十六歳で描いたものと伝わっています。

『三国志』の英雄・劉備玄德は、蔡昌という人物に暗殺されかかり、

ただ一カ所だけ軍勢のいない西門を抜け、怒濤逆巻く断崖絶壁の檀溪を悍馬（荒々しい馬のこと）・的蘆に乗って飛び越え、脱出に成功します。

絵はこの緊迫の場面を描き、とても十六歳の筆とは思えないほどの出来栄です。



馬之助が絵を教えてもらうため、河田小龍のもとへ通いはじめたのは嘉永六年（一八五三）十六歳の時でした。つまり、この絵馬は入門して間もない頃に描かれたことになります。

絵馬に書かれた「維駿」は馬之助の字（本名）で、雅号（本名以外の風雅な名）は小峰、維新後は鬼国山人の名も用いました。

馬之助の先生

河田 小龍

文政七（一八二四）年に土佐藩船役人の家に生まれました。早くから画家になろうと決意し、高知城下で林洞意、のちに京都で狩野山梁、さらに中村竹堂に南画を学び、土佐に帰ると高知城下で画塾をひらきました。

藩の命令でジョン万次郎から海外事情を聞き取り、『漂異記略』を著しました。

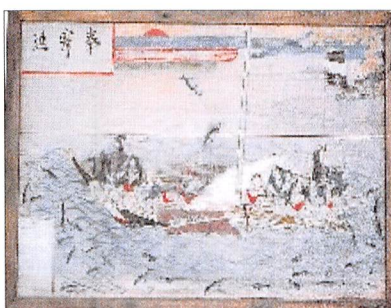
当時、土佐藩でもっとも開明的な知識人として活動し、坂本龍馬に海外へ目を向けることを教え、のちに龍馬のもとへ長岡謙吉・近藤長次郎・新宮馬之助たちを送り出します。

明治になると、京都府知事になった北垣国道の招きで京都に移り、琵琶湖疎水の絵を描きました。

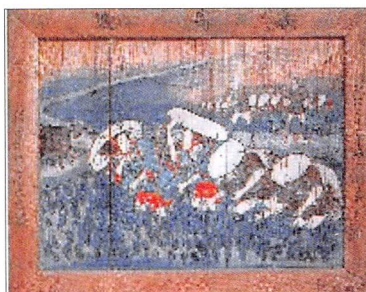
明治三一（一八九八）年に亡くなりました。



いろいろな絵馬



カツオ漁



田植え



酒づくり

安塚の戦いで戦死した

国吉栄之進（本村）

本村の国吉家には、小松利宗が描いた国吉栄之進の肖像画が残されています（左の画）。栄之進は本村の郷士で、迅衝二番隊に所属して戊辰戦争に参加しました。

ります。また、郷里の本村にも、遺族の手で栄之進の墓が立てられています。戊辰戦争の戦死者数は正確にはわかりません。両軍合わせて一万三千人を超えるという説もあります。土佐藩の戦死者は百六名とされていますが、最近の墓所調査では百二十七名の墓石が確認されています。おびただしい血が流されたこの内戦を経て、日本は近代国家の扉を開けることになったのです。

慶応四年四月十六日、大島圭介率いる二千有余の旧幕府軍は、小山（栃木県）で新政府軍と戦い、十九日には宇都宮城を攻め落とします。宇都宮救援の命令を受けた土佐藩迅衝隊は江戸から出兵。二十二日、雨の安塚で激しい銃撃戦を繰り広げ、大島軍を撃退しました。

しかし、この戦いで迅衝隊幹部の大石剛左衛門が討死し、二十六歳の国吉栄之進も鉄砲で咽喉を打ち抜かれて即死しました。

安塚戦争で戦死した土佐藩兵の墓は、栃木県壬生町の興光寺というお寺にあ



壬生興光寺の国吉栄之進墓（前列左）

本村の国吉栄之進墓

最後の浮世絵師 小松利宗



小松利宗「菅原道真図」

「最後の浮世絵師」とよばれる小松利宗は、本名を元吾といい、明治八（一八七五）年、兎田の農家で双子の弟に生まれました。

生まれつき絵が好きで、初代富家村長になった画人・別役春田から絵を習いました。十九歳の時に浮世絵師で身をたてようと土佐を飛び出して上京。月岡芳年の門人・新井芳宗のもとで五年間修行しました。

明治三十一（一八九八）年アメリカに渡り、絵を売りながらサンフランシスコ、シカゴ、ニューヨーク、フィラデルフィアなどを放浪。描いた浮世絵は珍しがられて飛ぶように売れたと、

本人が語っています。



その頃、オッペケペー節で有名な川上音二郎・貞奴一

座も渡米し、サンフランシスコをはじめ各地で「娘道成寺」や「楠公桜井の別れ」など日本の芝居を公演しました。面白いことに、利宗はその芝居の背景の絵を描いて一座を助けています。

明治三十五（一九〇二）年、五年間暮らしたアメリカから帰国。日露戦争が終わると今度は中国へ渡って大連の遼東新報へ入社します。この時起こったのが伊藤博文暗殺事件で、利宗は安重根の裁判を傍聴し、法廷のスケッチを残しました。

大正十三（一九二四）年、長い中国生活から足を洗って帰国。富士山が見える東京郊外の北多摩摩郡で暮らししました。そして、昭和十六（一九四一）年、太平洋戦争が始まる直前に高知へ戻り、しばらく高知市旭で生活し、高知大空襲で焼け出されて生まれ故郷の富家に戻り、昭和三十一年（一九五六）年、八十二歳の生涯をとおしました。

別役良馬の墓

富家には、板垣退助が碑文を書いた珍しいお墓があります。

文久元（一八六一）年十月、二十五歳の乾（板垣）退助は江戸勤めを命ぜられました。

この時、従者（身のまわりの世話をする家来）として付いていたのが、富家の別役良馬でした。才能にあふれた青年で、ひそかに学問で身をたてようと決心していました。ところが、不幸にも流行病（コレラでしょうか？）にかかり、二十六歳の若さで亡くなってしまいました。

それから五十三年後の大正三（一九一四）年、遺族の別役重嘉が板垣退助に頼んで追悼文を書いてもらい、建てたのがこのお墓です。

別役重嘉は兎田の医師で、かつて自由民権運動に参加したことがありました。



板垣 退助

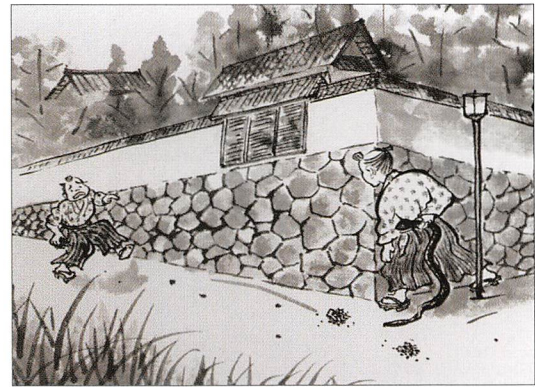


歴史の教科書にも出てくる板垣退助は、天保八（一八三七）年、現在の高知市中島町で土佐藩馬廻格乾栄六の長男に生まれました（のちに板垣と改姓）。

少年時代の名は猪之助（いのすけ）と言われ、手のつけられない暴れん坊でした。三十二歳の時に土佐の藩兵をひきいて戊辰戦争を戦い、西郷隆盛らと肩を並べる「維新の元勳」になります。

明治六（一八七三）年、征韓論に敗れて参議（朝廷の高い役職）を辞職。高知に立志社を創立し、国会をひらくことを要求して自由民権運動の指導者になりました。明治十四（一八八二）年、日本で最初の政党「自由党」の総理に就任。代議士にはなりませんでしたが、内務大臣を二度つとめました。

政界引退後は社会改良と弱者救済につくし、大正八（一九一九）年、八十三歳で亡くなりました。



イノス（板垣）がヘビを手にしておどせばヤス（後藤）は血相をかえて逃げだし、ヤスが馬糞を投げると潔癖性のイノスは逃げ散ったと伝わっています（藤本知子・画）



後藤象二郎

板垣退助の竹馬の友、後藤象二郎の子どもの頃の名前は保弥太（やまた）と言いました。乾猪之助とは、お互いを「イノス」「ヤス」と呼び合う仲でした。

板垣死すとも

自由は死せず

明治十五（一八八二）年四月六日。岐阜の中教院で行われた自由懇親会で演説した板垣退助は、玄関先で、ものかげから襲いかかった暴漢に短刀で刺されました。

この時、血を流しながら発した言葉が「板垣死すとも自由は死せず」です。この名文句はたちまち全国に広がり、人々に自由の大切さを教えることになりました。



暴漢に襲われる板垣退助（新聞のさし絵）

弁護士・衆議院議員

水野吉太郎の碑



水野吉太郎は、明治七（一八七四）年、水野源兵衛、道の長男として本村で生まれました。

二十二（一八八九）年、本村、兎田、中山田、新宮が合併して富家村が誕生すると、村民は高知から別役俊男を村長にまねきます。

別役村長は、寺田寅彦の義兄で自由民権家、それに「春田」という名の有名な画家でした。

水野吉太郎も森田正馬も、別役村長が村で学問を盛んにするためにつくった「自治会」という団体で学んでいま



す。水野は少年ながら、自由民権運動にも参加しました。

やがて水野は法律家を志して上京。和仏法律学校（現在の法政大学）を卒業し、高知で弁護士を開業しました。日露戦争後は、北海道小樽をへて中国の大連へ移ります。

明治四十二（一九〇九）年、中国東北部のハルビンで、元総理大臣伊藤博文が朝鮮独立運動家・安重根に暗殺される大事件が起こります。旅順の法廷で裁判がはじまると、水野は安重根の弁護人となり、処刑にも立ち会いました。これによって水野吉太郎の名は一躍有名になります。

大正元（一九一二年）、帰国した水野は、高知市帯屋町で弁護士事務所を開業、同九年には衆議院議員に当選しました。

昭和に入って日本が軍国主義にむかうようになると、彼は高知の言論界の人々と一緒に「大松俱樂部」という団体を結成し、板垣退助旧邸の保存や「憲政之祖国」の碑を建てるなど、議会政治の番人として活動しました。

戦後、水野の功績をたたえて建てられた兎田の顕彰碑は、内閣総理大臣吉田茂が書いたものです。

韓国とのかかわり

日露戦争後、韓国への支配をつよめた日本は、明治四十三（一九一〇）年、韓国を併合して植民地にします。この過程で起こったのが、安重根による伊藤博文暗殺事件でした。

安重根の裁判には、検察官や弁護士など、多くの高知県人がかかわっていました。

この時、たまたま水野弁護士のものを訪ねていた兎田の画家・小松利宗（元吾）が、高知で発行されていた土陽新聞の特派員として裁判を傍聴したのでした。

利宗は、安重根の獄中書、法廷の光景を描いたスケッチ帳、裁判の傍聴券



伊藤博文

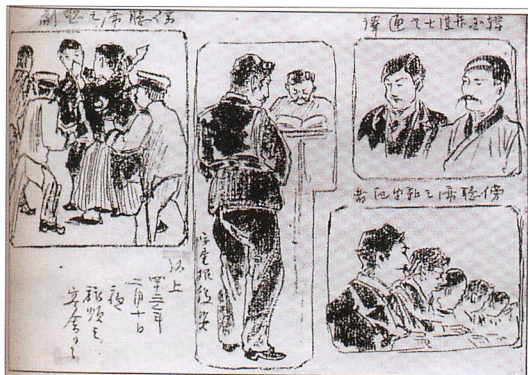


安重根

などを郷里に持ち帰りました。

これらは、日本と韓国の不幸な歴史をふり返る貴重な資料として大切にされてきましたが、二〇一六年、すべて韓国へ寄贈されました。

戦後、水野吉太郎は親せきの弁護士に、安重根の「死刑に立ち会ったが、正視できなかった。クリスチャンで、三十二歳という若さながら、りっぱな男だった。あんな非常手段をとらなかつたら、きっと韓国を背負っていただろう」と語っています。



小松利宗の裁判スケッチと安重根獄中書



まさたけ

森田 正馬

富家高等小学校、高知中学校（追手前高校）、熊本第五高等学校、東京帝国大学医科大学を卒業。東京慈恵会医科大学教授をつとめました。

この不思議な体験によつてパニツク障害を克服した森田は、精神医学



の道に進み、森田療法を生まれました。晩年、森

「森田療法」って何？

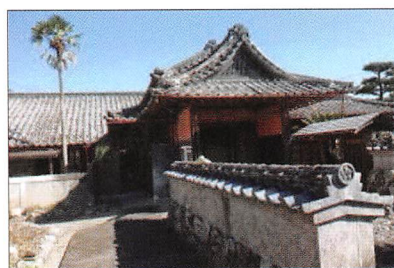
恐怖や不安は、より良く生きようとする欲望（生の欲望）と表裏一体のもので、人間誰もが持っている自然な感情です。しかし、悩み、不安、恐怖などの不快な反応に注意を向けると、不快な反応はますます強まります。するとさらに不快な反応に目がいってしまうという悪循環におちいってしまいます。これが強迫観念などの神経症です。

悩みを「あるがまま」に受け入れ、自分の中にある健康な力、自然に病気を治す力を最大限に生かして、神経症の患者さんが「とらわれ」の悪循環から脱出することを援助します。

この治療法は、うつ病などの病気にも高い効果が認められ、国際的に高い評価を受けています。

(参考・公益財団法人メンタルヘルス岡本記念財団HP)

いまも「森田館」として残る建物
は、森田博士が寄付した講堂です。



生 家

2018年4月26日の高知新聞

町出身で日本の精神療

「海外も森田療法注目」
学会員ら香南市訪問

（書）：香南市野市 法の先駆者 森田正馬
（電話）：224-4-6338

森田療法の特徴を説明する中村政二
森田療法学会理事長＝左から
2人目＝ら（香南市野市町）

療法が創始した。森田
法は、寛政15年（1803）に、
会（バナー）は、（森
田）の、同市の香南市野市町として知られる。森田
院長を数回訪問した。7療法
月を定めている。近年は、一般的に薬物
が投与されるつ病の
治療にも用いられてい
るという。
森田は、異立幕幕の中
学校（現学予前高）で
東京聖光学院で学んだ。現
東大医学部で、森田正馬
科大医学部付属第三病院
院長、同学院の中村政二
事、および地元図書館を
た。

中村理事長は、「日本
の高知市野市で生
れた森田の功業を
（森田）の功業を
方に基づいた精神
療法外からの注目
た。

香南市野市町に、記念
館を計画している。関
心がある方は、電話
（森田）の功業を
（森田）の功業を
（森田）の功業を

18
466
村海博

金持は事自今に財産の不先金方を思ひ智者は事に
自今に智能に足らざるを憂ひ柔順なるのは自今に才
ある方か非ずやと悲しむ人は自今を要人と信ぢり
貪者は事自今に有りたるを使い果す愚者は自今に有
りける智恵才力も足せぬなり柔順なるものは
常にこれ以上を求順が要まらぬと思ふ不善人は自今を越
え親切なりと信ぢり

昭和十二年三月 森の正馬

森田正馬博士の軸

金持は常に自分の財産の不充分なるを思ひ、智者は常に自分の智能の足らざるを憂ひ、柔順なるものは自分が我がまゝ者に非ずやを恐れ、善人は自分を悪人と信ぜり

貧者は常に金の有りたけを使い果たし、愚者は自分のありたけの智恵を常に見せびらかし、不柔順なるものは常にこれ以上の柔順が出来るかと怨み、不善人は自分を誠実親切なりと信ぜり

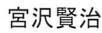
昭和十一年六月

森田正馬

宮沢賢治の童話集『注文の多い料理店』は児童文学の傑作といわれています。

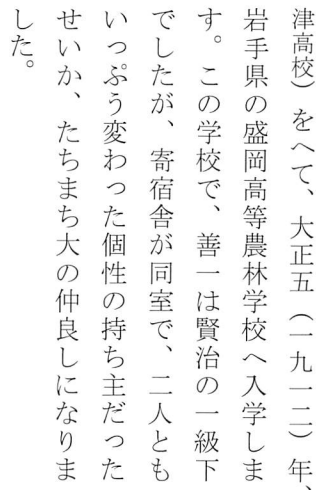
いまでは大変有名な賢治ですが、生前に出された本は、詩集『春と修羅』と『注文の多い料理店』だけです。

この本の発行名義人「近森善一」こそ、大正十四（一九二五）年と昭和二十七（一九五二）年の二度、富家村長になった近森善一その人なのです。



近森善一は、明治三十（一八九七）年、富家村中山田の大変富裕な農家に生まれました。県立海南中学（現在の小

兎田の小松家に伝わる『注文の多い料理店』の初版本。宮沢賢治と高知をつなぐ大変貴重な一冊です



卒業後、善一は昆虫学の研究に取り組み、盛岡中学校や長崎県立農学校の教師をへて、母校の助手として盛岡に帰ってきました。

けれども月給六十円という好待遇の助手をやめ、専門の昆虫学の知識を生かして「チカモリン」という農薬の製造販売を始め、また『病虫害駆除予防便覧』、^{びんらん}「農業昆虫教科書」、『^{はえ}蠅と蚊と蚤』などの本を出版して販売する

ようになります。

大正十二（一九二三）年十二月、

花巻農学校へ本を売り込みに行ったところ、たまたまこの学校の教員になっていた宮沢賢治に再会したのでした。

そこで童話の原稿がたくさんあることを聞かされた善一は、『注文の多い料理店』出版を決意します。

しかし、昔も今も、本を出版するにはたくさんのお金が必要です。その費用にあてられたのが、先に紹介した善一の農業書でした。

出版準備にとりかかったところ、善一は急な事情で高知へ帰らざるを得なくなりました。仕事は及川おいかわ四郎という人物にゆだねられます。

しかし、及川にはお金がなく、多額の出版費用は善一の農業書をあちこちに苦勞して売りさばくことで調達し、大正十三（一九二四）年十二月、ようやく『注文の多い料理店』の初版千部が出版されたのでした。

つまり、この本の出版費用

のほとんどは、近森善一が負担したのです。

こんなすばらしい名作を日本の子ども達にプレゼントした彼の功績は、もつともつと知られてよいのではないでしようか。少なくとも生まれ故郷の香南市では・・・。

(小松桃子)

戦争遺産

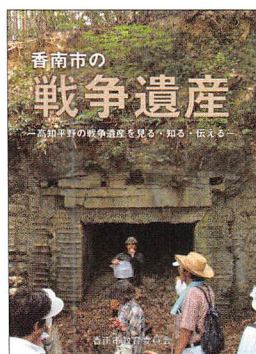
近年、香南市では戦争遺跡が相次いでみつかっています。

日本の敗色が濃くなった太平洋戦争末期、本土防衛のため高知県には六万人を超える兵力が集められ、土佐湾一帯で決戦準備の砲台やトーチカ、塹壕などが無数につくられました。

高知平野を一望できる三宝山でも放置された遺跡が各所でみつき、「三宝山戦争遺跡群」と名づけられています。

富家地区では、三宝山頂上へ向かう小道や兎田八幡宮参道の階段途中などにトーチカや壕が残っています。実際に高知平野で本土決戦が行われていたらと思うと、誰もがぞつとすることでしょう。

これらの戦争遺産は、戦争の悲惨さ、平和の大切さを後世に伝える重要な遺産です。



香南市教育委員会発行
『香南市の戦争遺産』



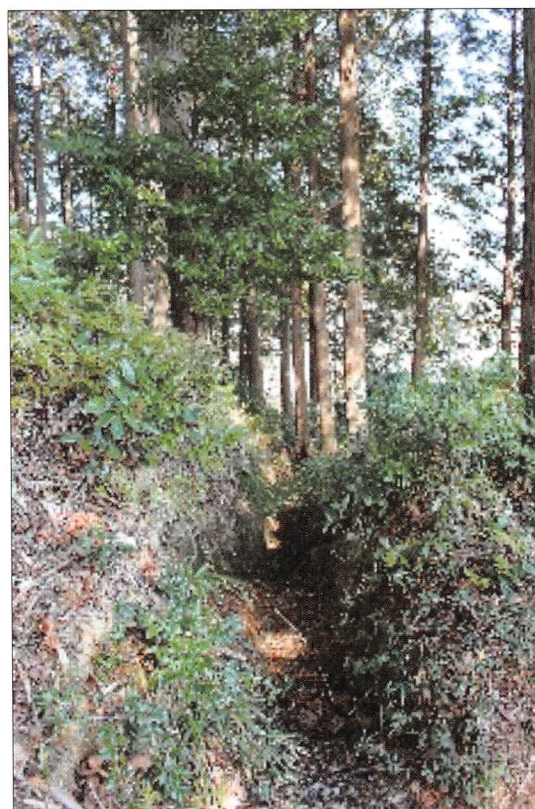
三宝山10号トーチカ

平成29（2017）年にみつかったトーチカ。



三宝山8号トーチカ

参道階段の西側にあり、銃眼は南の平井山の方を向いている。



交通壕

八幡宮の参道東側には三宝山9号トーチカがある。この壕は8～9号トーチカをつなぐための交通壕。

【参考文献】

この冊子編さんにあたって、次の文献を参考にしました

野市町教育委員会『兎田柳ヶ本遺跡・現地説明会資料』

別役春田『富家村実況 出多羅目草誌』

西左刀『富家人物史 新宮馬之助』

竹内莊市『鎮守の森は今』

高知新聞社『高知県人名事典 新版』

高橋正『高知の近代文学を掘る』

高知市立自由民権記念館図録『絵馬』

高知県立高知城歴史博物館図録『明治元年の日本と土佐 戊辰戦争 それぞれの信義』

甲藤勇『土佐近代画人抄』

畑野文雄『森田療法の誕生』

香南市教育委員会『香南市の戦争遺産』

ガイドブック 富家の歴史（非売品）

2019年2月28日発行

編集 公文豪

香南市野市町中ノ村519-1

発行所 土佐史談会

オーテピア高知図書館内

電話 088-854-5566

印刷・製本 ステップワン

香南市夜須町西山1325-1

この冊子は、高知県教育委員会「平成30年度公民館ふるさと教育推進事業」補助金をもとに作成しました。

